

イントラリポス®輸液10%・20%を使用される患者さんへ

静注用 脂肪乳剤 ご使用の手引き



監修 一般社団法人 日本在宅医療連合学会



Otsuka 株式会社大塚製薬工場

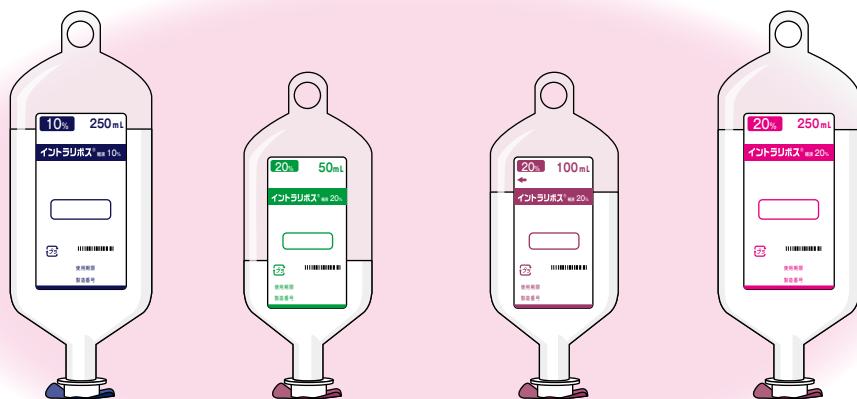
目次

脂肪乳剤とは	2
保管について	3
ご使用前の確認	4
ご使用前の準備① 手洗い	5
ご使用前の準備② 消毒	6
投与ルート例と輸液ルートの各部位説明	7
脂肪乳剤の投与ルート [単独]	9
脂肪乳剤の投与ルート [同時]	11
ご使用方法	13
ご使用の後に	17
よくあるご質問と回答	19

脂肪乳剤とは

- 大切な栄養素である、必須脂肪酸やエネルギーなどを静脈から投与することができる製剤です。
- 内容液が白い製剤です。
- 脂肪乳剤は感染予防のためのフィルター (P.11、12参照) が使用できません。
細菌が混入しないよう、清潔な場所での使用、手洗い・消毒に気をつけましょう。

イントラリポス®輸液のラインナップ



イントラリポス輸液10%
(250mL袋)

イントラリポス輸液20%
(50mL袋)

イントラリポス輸液20%
(100mL袋)

イントラリポス輸液20%
(250mL袋)

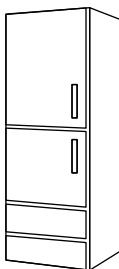
保管について

段ボール箱に入れ、涼しい場所に保管しましょう。

段ボール箱



冷蔵庫



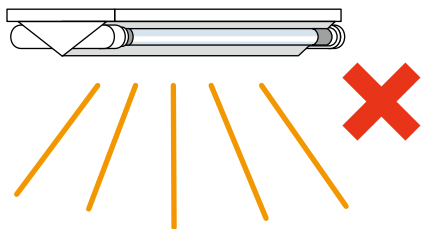
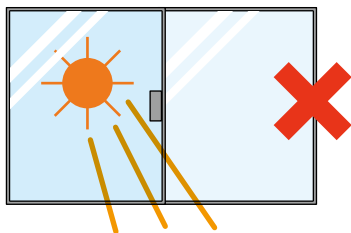
冷蔵庫に入れても大丈夫です。

※凍らせないこと

凍結したものは使用しないでください

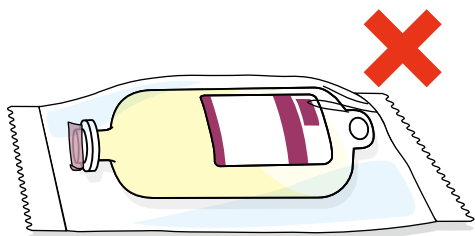
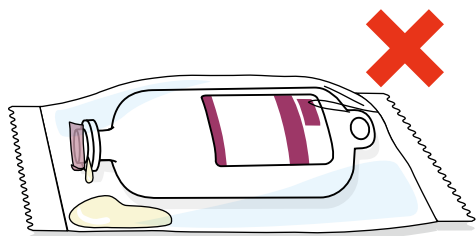
使用前に室温に戻しておいてください

直射日光や蛍光灯が当たらないように保管してください。

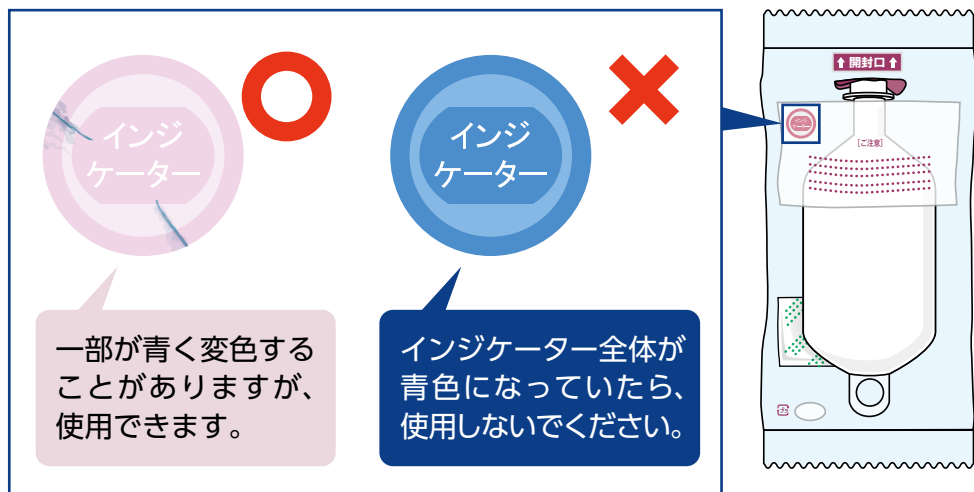


ご使用前の確認

- 外袋は使用直前に開けましょう。
- 「内容液が漏れていない」 こと、「内容液が変色していない」 ことを確認しましょう。



- 使用前に外袋のインジケーターがピンク色であることを確認しましょう。



- 脂肪乳剤ご使用の前には、しっかりと手洗いを行いましょう。感染を予防するため、清潔な状態での使用が大切です。

手洗い方法

せっけんを十分に泡立て、手のひら、指、親指、爪の間、指の間、手首までを十分に洗います。



手のひら



指



親指



爪の間



指の間



手首

ペーパータオルか、清潔な乾いたタオルで手を拭きましょう。

※ 爪、指先、指の間、手首は洗い残しがある部位なので気をつけましょう。

ご使用前の準備 ② 消毒

- 手洗いの後は、必ず消毒を行きましょう。

消毒方法

消毒液を手のひらに取り、両手の指先、手のひら、手の甲、指の間、親指、手首の順に乾燥するまでよくすり込みます。



指先



手のひら



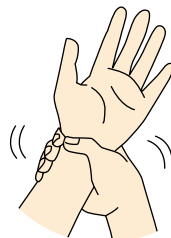
手の甲



指の間



親指

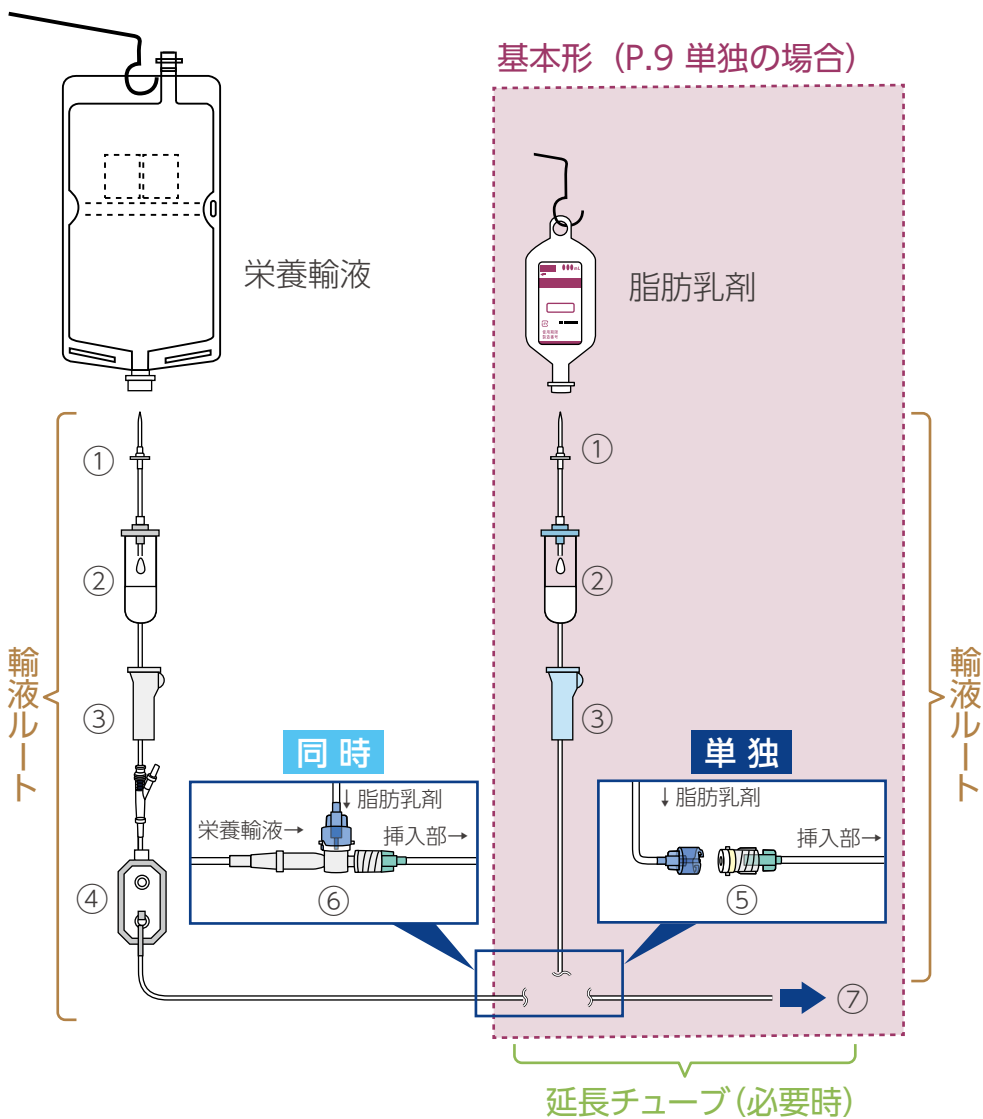


手首

消毒液は完全に乾燥させましょう。

投与ルート例と輸液ルートの各部位説明

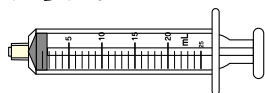
- 輸液剤から輸液ルート、延長チューブを経て体内に挿入するまでを投与ルートといいます。



- ①**びん針**：輸液剤の容器に差し込みます。
 - ②**点滴筒**：輸液剤がきちんと滴下しているか確認します。
 - ③**ローラクレンメ**：輸液剤の速度を調節します。
 - ④**フィルター**：細菌および異物を除去します。
脂肪乳剤を単独で投与する場合 (P.9) は使用しません。
 - ⑤**接続部 (コネクタ)**：輸液ルートと延長チューブをつなぎます。
 - ⑥**側管**：輸液ルートと延長チューブをつなぎます。
脂肪乳剤を単独で投与する場合 (P.9) は使用しません。
 - ⑦**挿入部**
 - ・留置針：点滴を行う時に静脈に挿入します。
 - ・カテーテル：中心静脈という太い血管に挿入します。
- ※投与ルートは一例です。

その他に必要なもの

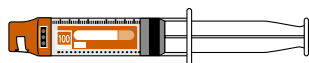
・シリンジ



・生食ボトル



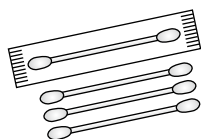
・ヘパリン生食シリンジ
(ヘパリンナトリウム製剤)



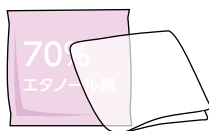
・注射針



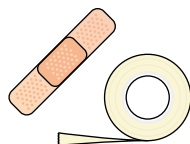
・ポビドンヨード液付き綿棒



・アルコール綿



・絆創膏 など

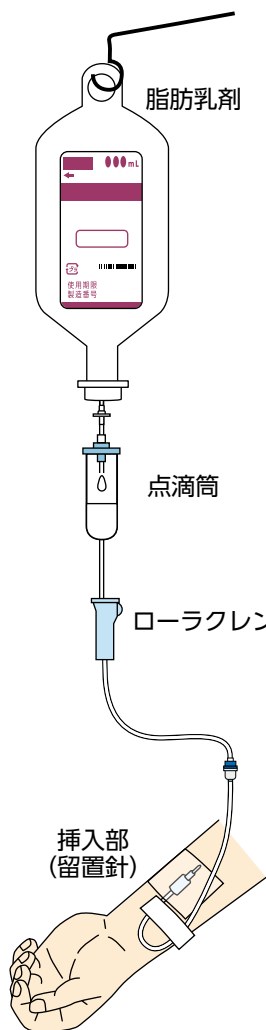


脂肪乳剤の投与ルート

単独

- 脂肪乳剤は **単独** で投与するのが基本です。

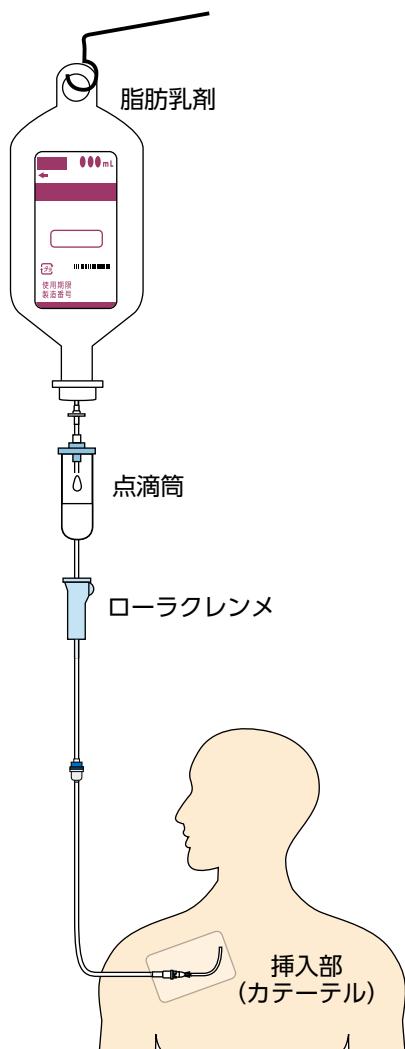
例 末梢静脈ルートの場合



輸液ルート

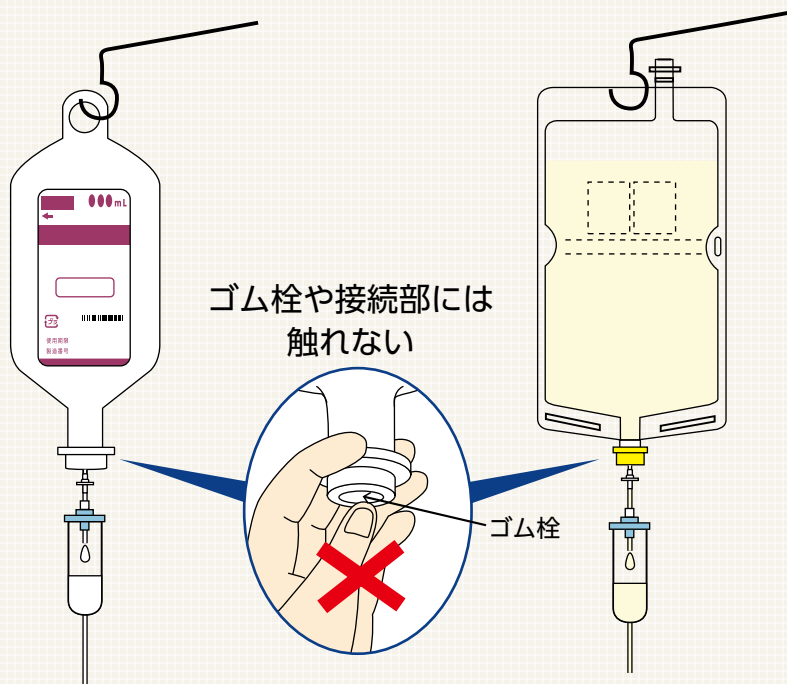
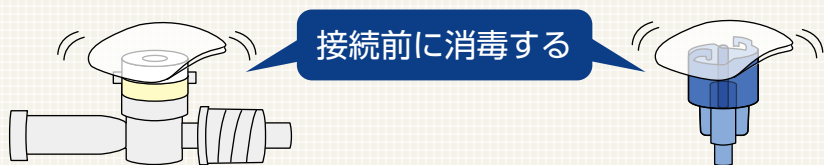
延長チューブ
(必要時)

例 中心静脈ルートの場合



注意点

- 輸液ルートを使用するときは、清潔な状態で使用するよう十分注意しましょう。
- ゴム栓や接続部は、アルコール綿でしっかり消毒し、手で触れないようにしましょう。

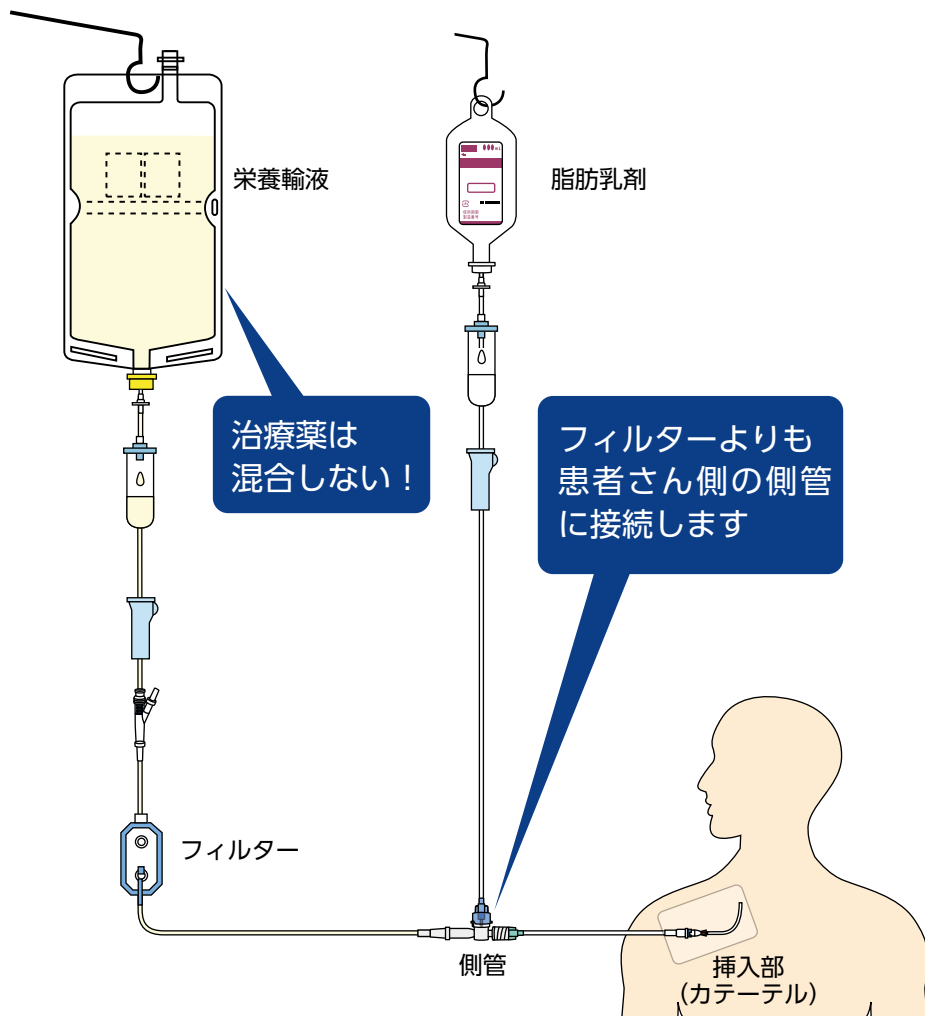


脂肪乳剤の投与ルート

同時

- やむを得ず持続投与中の栄養輸液の側管から **同時** に投与することもあります。

例 中心静脈ルートの場合



注意点

治療薬(他の注射剤)を脂肪乳剤に混ぜないこと

- 他の注射剤を混ぜないでください（内容液が白く見えるため、他の注射剤を混ぜた時に沈殿や混濁を生じてもわかりません）。

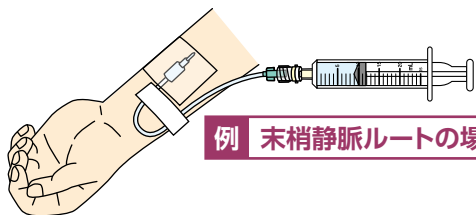
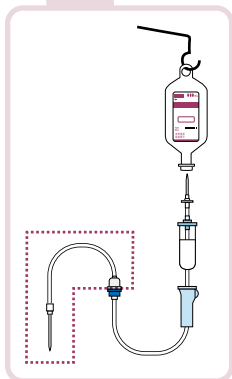
フィルターよりも患者さん側に接続すること

- 脂肪乳剤はフィルターを通らないので、フィルターより患者さん側の側管に脂肪乳剤の輸液ルートを接続します。
- 脂肪乳剤をフィルターに通すとフィルターが詰まるので注意してください。

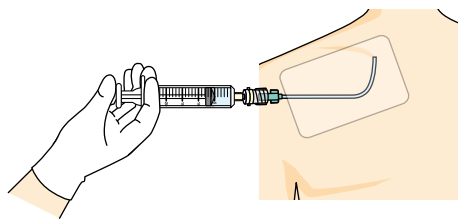
ご使用方法

1

これから脂肪乳剤を投与する挿入部のチューブやカテーテルを、生理食塩液で洗い流します（この操作をフラッシングといいます）。



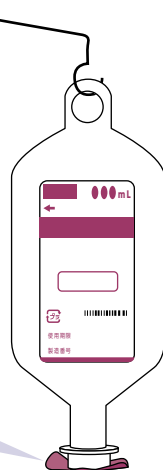
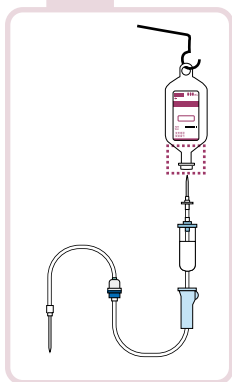
例 末梢静脈ルートの場合



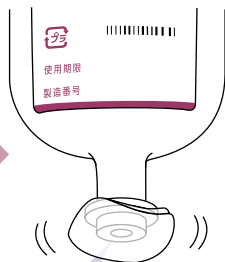
例 中心静脈ルートの場合（カテーテル）

2

外袋から取り出した脂肪乳剤を点滴スタンドに吊り下げ、シールをはがして、ゴム栓をアルコール綿で消毒します。



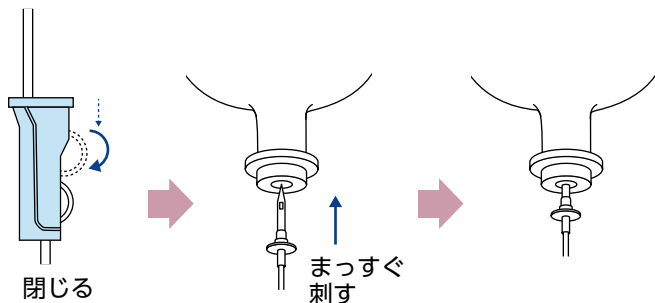
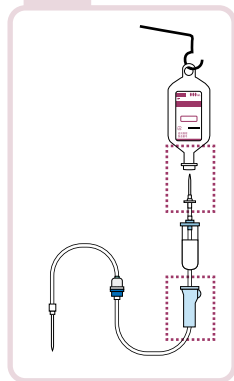
シールをはがす



しっかり消毒

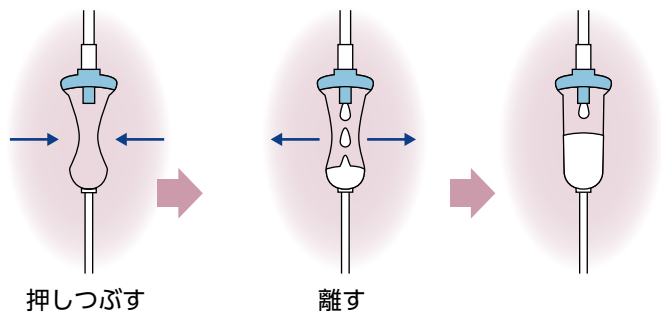
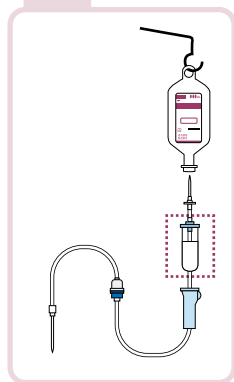
3

輸液ルートのパークレンメを閉じ、ゴム栓の「○」部分に
びん針をまっすぐ刺します。



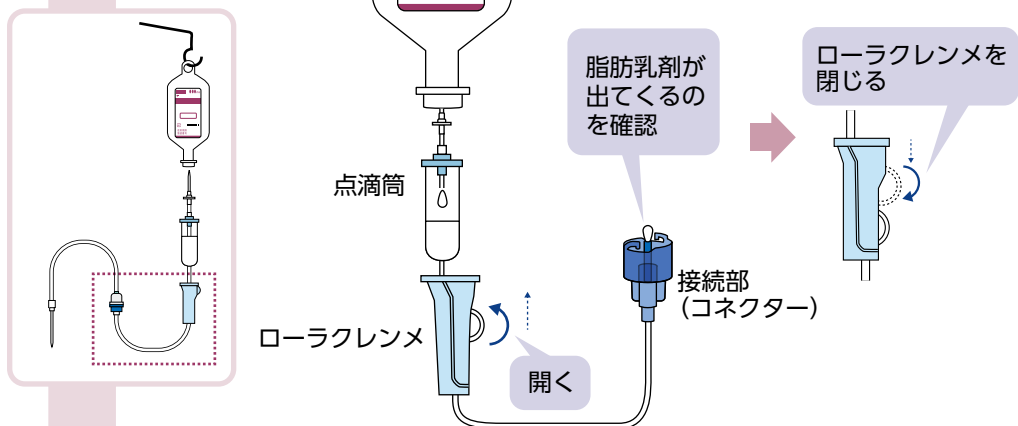
4

点滴筒をゆっくり指で押しつぶしてから離し、筒の真ん中くらいまで脂肪乳剤を満たします。



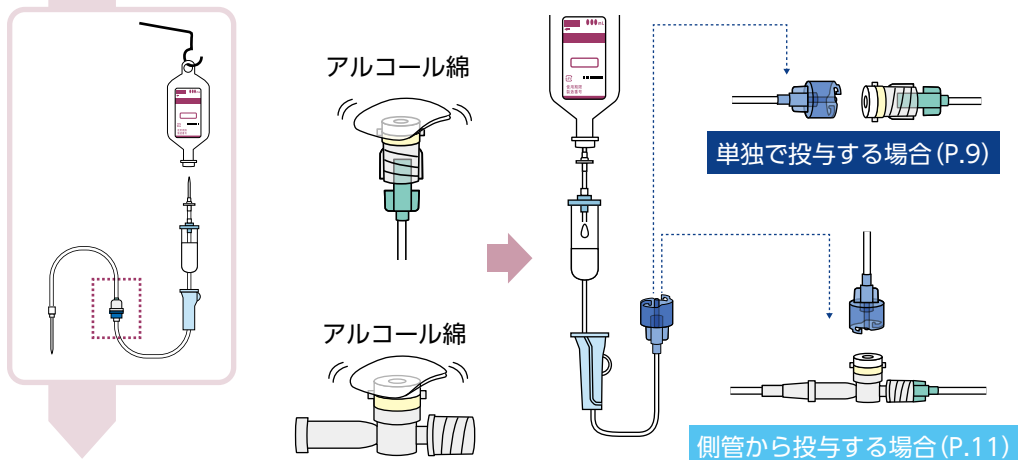
5

接続部（コネクタ）を消毒した後、ローラクレンメを徐々に開き、輸液ルートチューブ内に空気が残らないように脂肪乳剤を流し込み、先端まで満たされたら、ローラクレンメを閉じます。



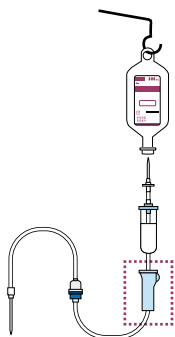
6

挿入部側の接続部を、アルコール綿でしっかり消毒した後、脂肪乳剤のチューブを接続します。

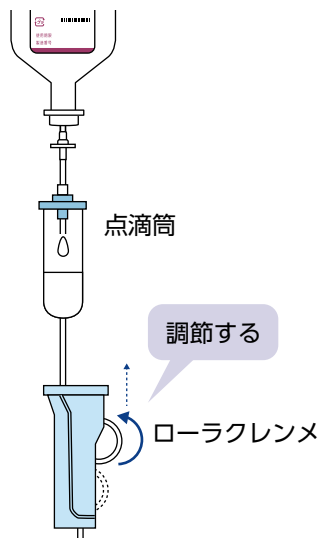


7

ローラクレンメを操作して、指示通りの滴下速度になるように調節します。

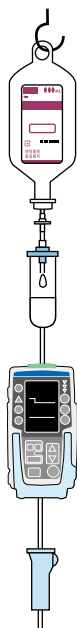


投与量・投与速度などは、医師、看護師、薬剤師の指示にしたがいましょう。



ポンプ使用时、気泡によりアラームが鳴る事があるので、その場合は主治医もしくは看護師に相談してください。

輸液ポンプ使用时、側管から脂肪乳剤を使用している場合は、脂肪乳剤をお体より高い位置に設置してください。



8

投与中は、患者さんの状態や滴下速度などに変化がないか、観察しましょう。

ご使用の後に

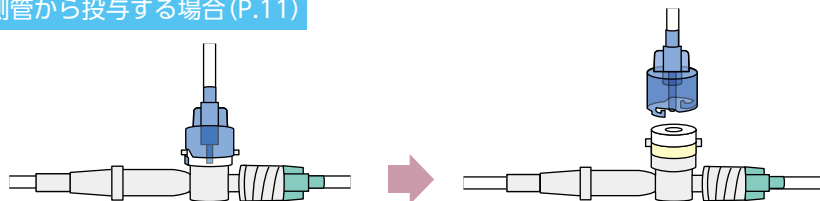
1

輸液ルートのローラクレンメを閉じ、接続部から、脂肪乳剤の輸液ルートを外します。

単独で投与する場合 (P.9)



側管から投与する場合 (P.11)

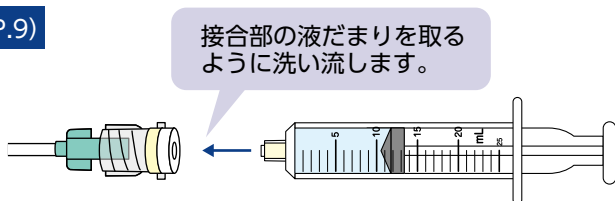


2

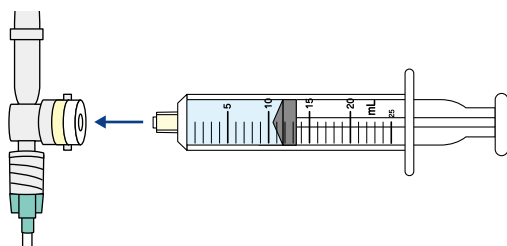
注射器に生理食塩液を取り、挿入部のチューブやカテーテルに注入します (フラッシング*)。

※これは、チューブ内に残った脂肪乳剤を洗い流すための操作です。

単独で投与する場合 (P.9)



側管から投与する場合 (P.11)

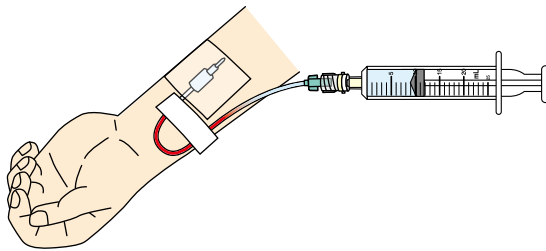
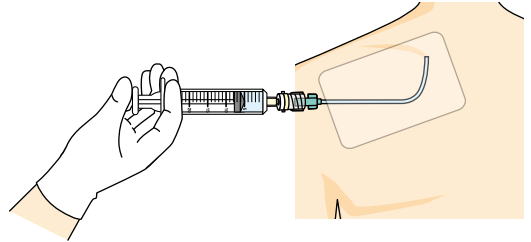


3

必要に応じて、ヘパリン生食でチューブやカテーテル内を満たします（この操作をヘパリンロックといいます）。

留置針やカテーテルを静脈内に置いたままにすると、先端部に血液が入った時に固まって詰まることがあります。これを防ぐために行います。

医師、看護師、
薬剤師の指示に
したがきましょう。



脂肪乳剤投与に用いた輸液ルートは、**投与開始時から24時間以内に交換、または外しましょう。**

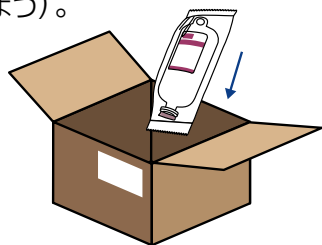
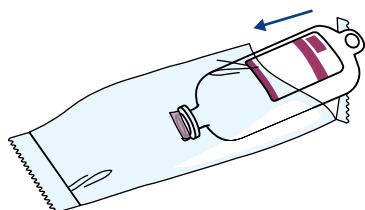
よくあるご質問と回答

Q. フラッシングはどのくらいの量で行えばよいのですか？

A. 10～20mL程度で行います。

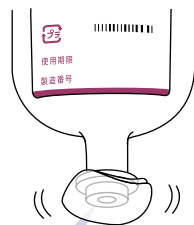
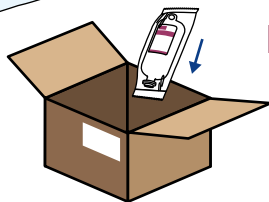
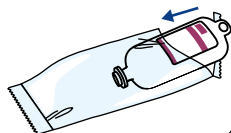
Q. 外袋を開けてしまったのですが、いつまでに使用すればよいですか？

A. 外袋に戻して段ボール箱に入れ、次回の投与時にご使用ください（外袋を開けてから4週間以内に使いましょう）。



Q. シールをはがしてしまったのですが、いつまでに使用すればよいですか？

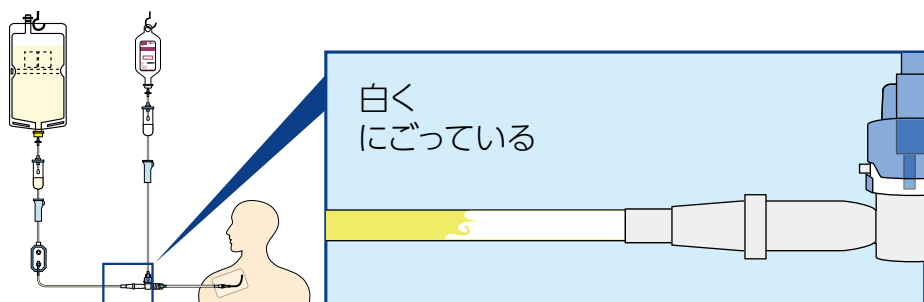
A. 外袋に戻して段ボール箱に入れ、次回の投与時にご使用ください。次回使用時のゴム栓消毒をしっかりとしましょう（外袋を開けてから4週間以内に使いましょう）。



使用時に
しっかり消毒

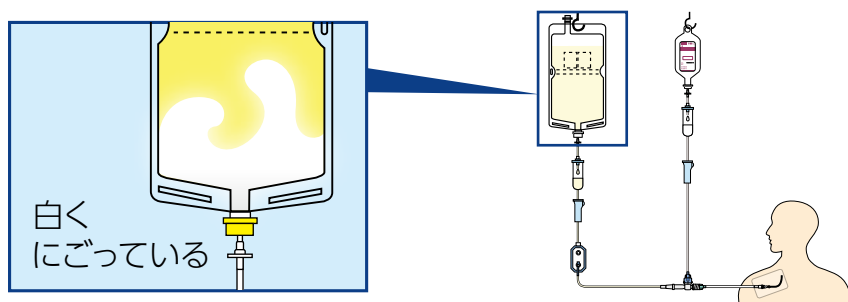
Q. 同時投与している栄養輸液のチューブに脂肪乳剤が逆流して濁っているのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. 一旦、脂肪乳剤の投与を止めてください。輸液の滴下に伴って、チューブ内が透明になったら、脂肪乳剤の投与を再開してください。なお、栄養輸液投与後に輸液ルート 新しいものに交換しましょう。



Q. 同時投与している栄養輸液に脂肪乳剤が逆流して濁っているのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. 栄養輸液、脂肪乳剤、および各々の輸液ルート 新しいものに交換してください。

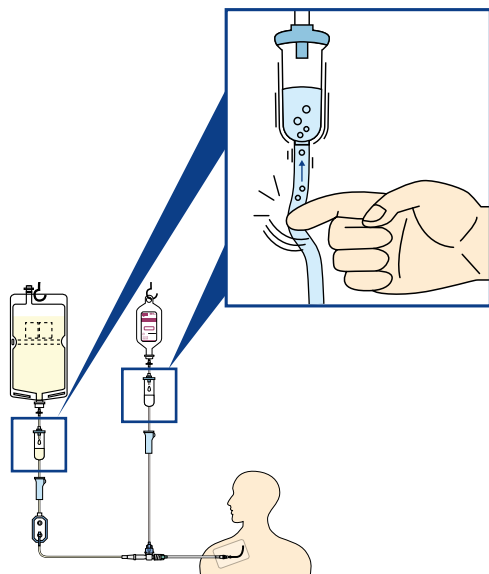


Q. 投与中は遮光カバーをかけなくてもよいのでしょうか？

A. 脂肪乳剤は遮光の必要はありません。

Q. チューブ内に気泡があるのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. チューブを指ではじくなどして、点滴筒内に戻してください。チューブ内で1cmくらいの空気であっても、血管に入ると直ぐに溶け込むので、気にしすぎないようにしましょう。



Q. 血管痛（痛み、熱感、赤みなど）があるのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. 脂肪乳剤の投与を中止して、主治医もしくは看護師にご連絡ください。

Q. 点滴が漏れた（腫れ、痛み、皮膚が白く透ける）ようですが、どうしたらよいのでしょうか？

A. 脂肪乳剤の投与を中止して、主治医もしくは看護師にご連絡ください。

Q. 輸液ポンプで投与している際に、気泡が発生し、頻繁に止まるのですが、どうしたらよいのでしょうか？

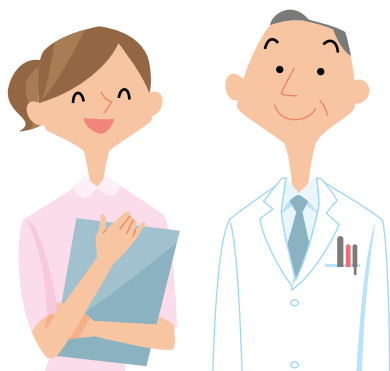
A. 予め脂肪乳剤を温めておくことで、ある程度の気泡発生を防ぐことはできます。

Q. 投与前に温めてもよいのでしょうか？

A. 温めてもかまいません。外袋のまま50℃程度の湯煎にいと、20分程度で人肌まで加温できます。それ以上高い温度での加温は避けてください。

Q. 脂肪乳剤投与後に生理食塩液でチューブ内を洗い流さずに（フラッシングしないで）ヘパリン生食でチューブ内を満たしても（ヘパリンロックしても）よいのでしょうか。

A. 脂肪乳剤はヘパリンと混合すると凝集分離をおこすとの報告があります。そのため脂肪乳剤投与後は、ヘパリンロックをする前に必ず生理食塩液でチューブ内を洗い流してください。



連絡先

● 主治医

名 前	
電 話 番 号	
緊急連絡先	

● 訪問看護ステーション

名 前	
電 話 番 号	
緊急連絡先	

● その他

名 前	
電 話 番 号	
緊急連絡先	